

## ベトナム留学生蕎麦打ち会



「ベトナム留学生蕎麦打ち会」は、2009年に小生の友人で在日ベトナム学生青年協会(VYSA)の顧問である小川弘行氏から、学生が留学中に少しでも日本の文化に触れる機会を持たせたいとの話があったのがきっかけでした。

そこで、日本の食文化の一つである蕎麦、その蕎麦の美味しさ、そして何より蕎麦打ちの楽しさを体験して欲しいと小生より提案し、それ以来毎年夏休み中に実施しており今年で第4回目を迎えることとなりました。

第1回目は20名が参加、第2回目以降は毎年25名以上の参加を頂いています。来年以降もまた、ベトナムと日本のために少しでもお役に立つことができるなら、こんなに嬉しいことはありません。  
[江戸ソバリエ・ルシック 畑 貞則]

猛暑の2012年8月5日(日)、渋谷区立幡ヶ谷社会教育会館でベトナム留学生25人の参加を得て「手打ち蕎麦講習会」が行われました。

酷暑の午後1時半から5時までの3時間半に及びましたが、気概に溢れ、元気一杯で、生気が満ち満ちた留学生達の「蕎麦打ち体験講習会」へ、江戸ソバリエメンバー(畑貞則、石垣佳之、芝崎健二、小澤和重、森菌孝志)が指導役として参加しました。



まず、世話役代表の畑貞則さんが蕎麦粉の種類・性質などを説明し、デモ打ちを行いました。



続いて学生たちが5人一組の5班に分かれ、500gの蕎麦粉で、水まわし・捏ね・延し・切りなど、蕎麦打ちを行い、自分たちで打った蕎麦を茹でて試食してもらいました。

(指導役として各班に江戸ソバリエメンバーが1名ずつ付きます)。

グループで打った蕎麦の試食になると、蕎麦打ち時の緊張が若干緩み、お互いの旧交をあたためたり、お互いを紹介したり、自己紹介などを行っていました。



さらに自分たちで打った蕎麦が一番美味しいなどと、ベトナム語と日本語が交錯していました。日本での蕎麦の栽培、栄養価や、**なぜ大晦日に蕎麦を食べ、正月には食べないのか**、お節料理等やベトナムの食・文化・慣習や宗教概念などいろいろと懇談しました。

また、ベトナムは首都ハノイ周辺の北部、古都フエを核とした中部、南部のホーチミン地域などで文化・風習や食べ物が若干相違していることなどの話を興味深く聞くことができました。

留学生たちは日本の有名国公立・私立の学生、院生などでした。彼らは自分の専門研究はもちろん日本の文化・習慣や日常の市民生活の探究等にも余念がなく、少しでも暇があれば日本の各地を訪れ新旧日本の文化・習慣なども講究しています。

ベトナム留学生の若さ、輝く眼、自信に満ち満ちた気力を、自分も戴き活力が芽吹いて来たように思われ、楽しい講習会でした。ありがとうございました。

最後になりましたが「そば打ち会」をボランティアで手伝って下さいました、地元幡ヶ谷婦人会の方々に心から感謝いたします。 [江戸ソバリエ・ルシク 森菌 孝志]

※VYSA ホームページのニュース欄にこれまでの蕎麦打ち会の様子が掲載されています

<http://www.vysajp.org/news/category/japanese/vysa-news/>